

# ミクロ経済学 演習2020 第12回 (July/27)

---

・君らはトチオンガーセブンを知っているか？

・産大附属高校卒業生の生み出した今や全国区のスーパーヒーロー。

## 本日のコンテンツ

### まずは復習

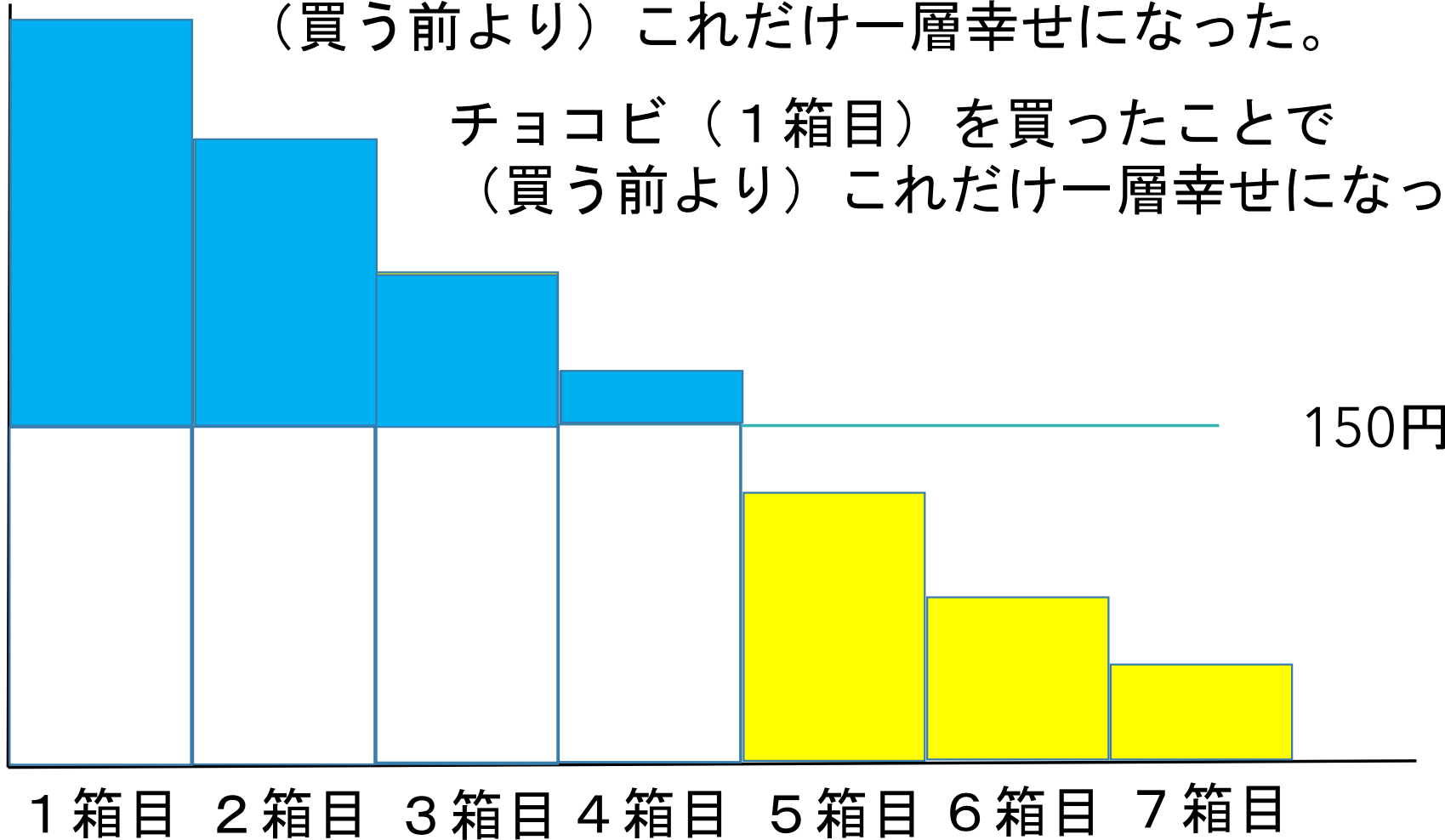
1 : 私たち消費者の日頃のもの買い方と「右下がりの需要曲線」

2 : 市場の最適性

チョコビが150円だとして

チョコビ（1箱目）を買ったことで  
（買う前より）これだけ一層幸せになった。

チョコビ（1箱目）を買ったことで  
（買う前より）これだけ一層幸せになった。

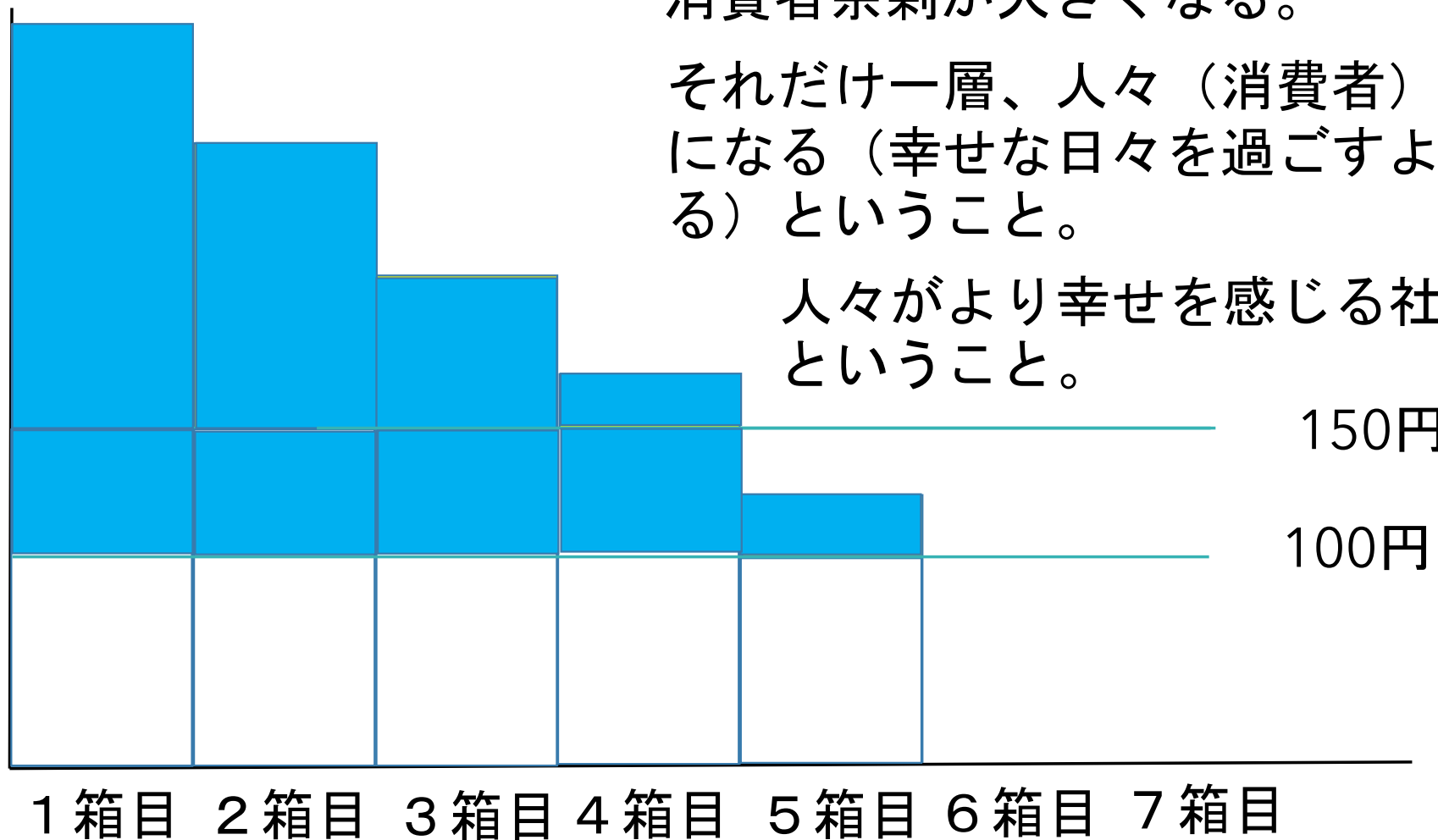


## チョコビが値下がりすると・・・

消費者余剰が大きくなる。

それだけ一層、人々（消費者）が幸せになる（幸せな日々を過ごすようになる）ということ。

人々がより幸せを感じる社会になった、ということ。



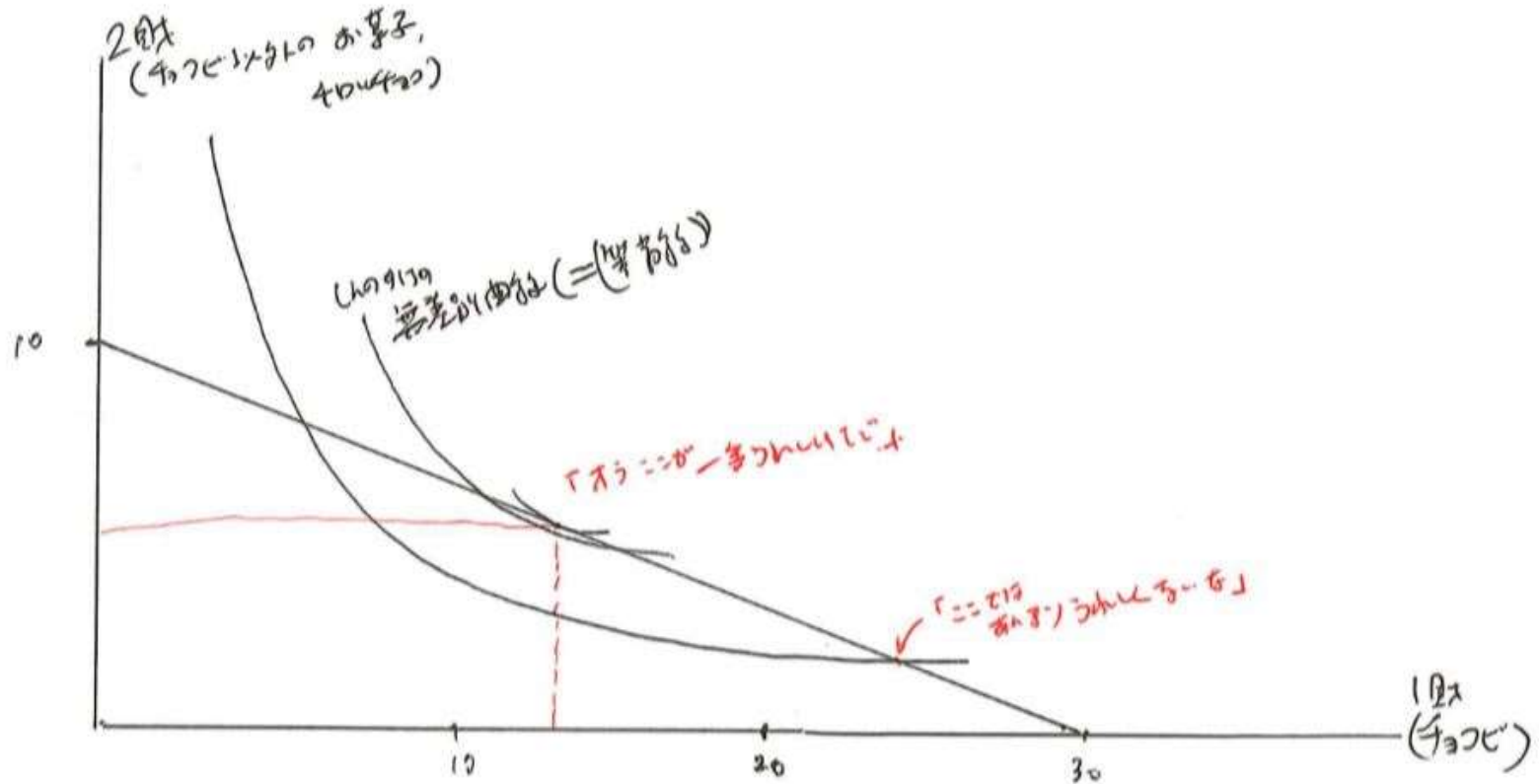
ところで、

第4回の「ミクロ経済学演習」の資料では消費者の理論について次のようなスライドが出ていた。

# 消費者選択の理論

...「人は、自分の所得で買える範囲内で、

自分が最も満足に感じるモノを買って消費する」ハズ。という内容



という話しと、先週した（＝先ほど復習した）右下がりの授業曲線は実は限界効用曲線なんだ、という話し。

なんか、全然別の話というか、つながってないような気がしますませんか？

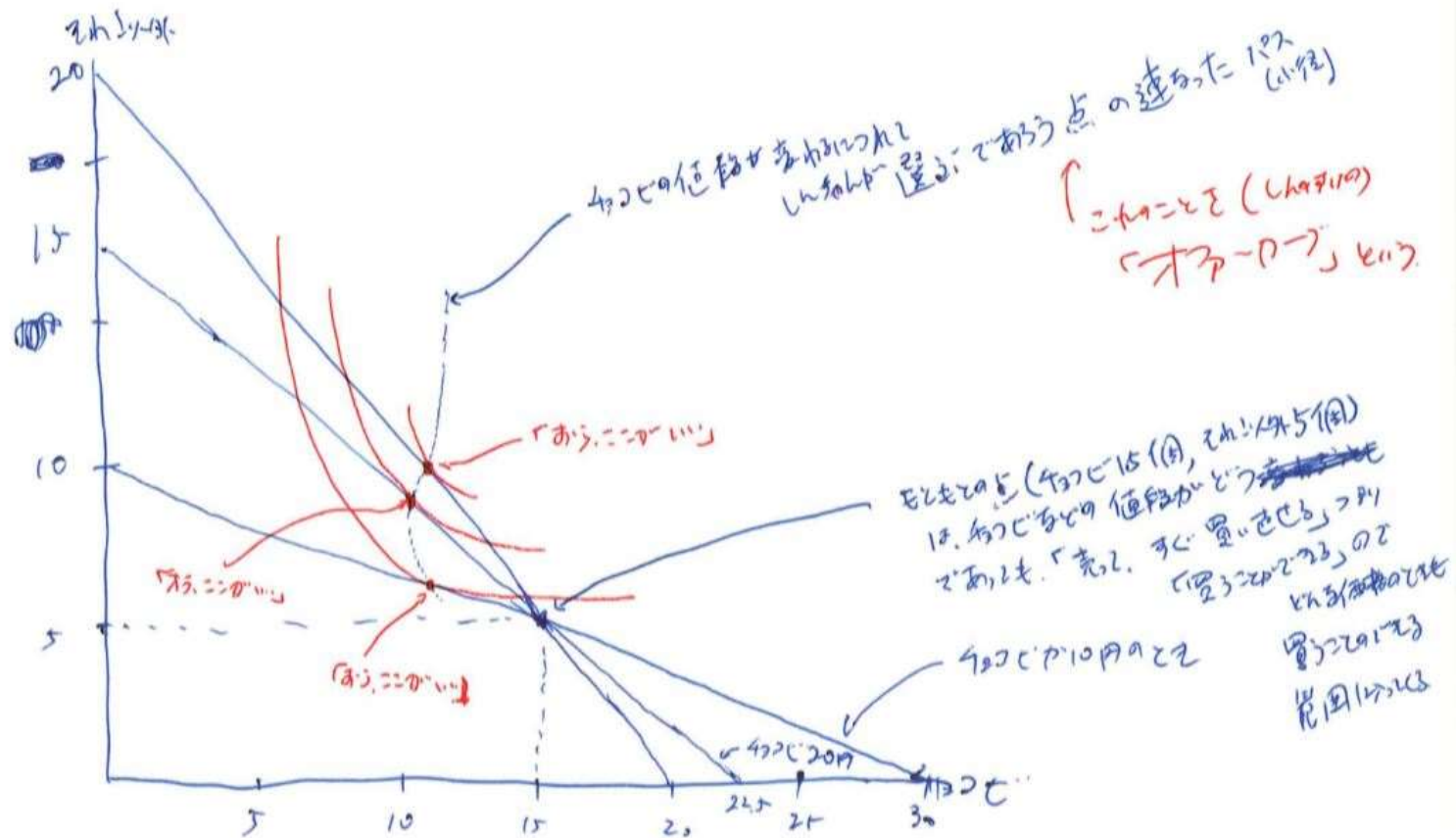
「それはそれ。これはこれ」って感じ？

本当はこれら2つの話しは、つながっている。しかし、実はまだそこにある「つながり」を（この授業ではまだ）説明してはいない。

22. (本場の需要)とこれに一致して起る(か) 400Cの値段が:

毎日の:

「10円 → 20円 → 30円」と、急激に変化したとする。





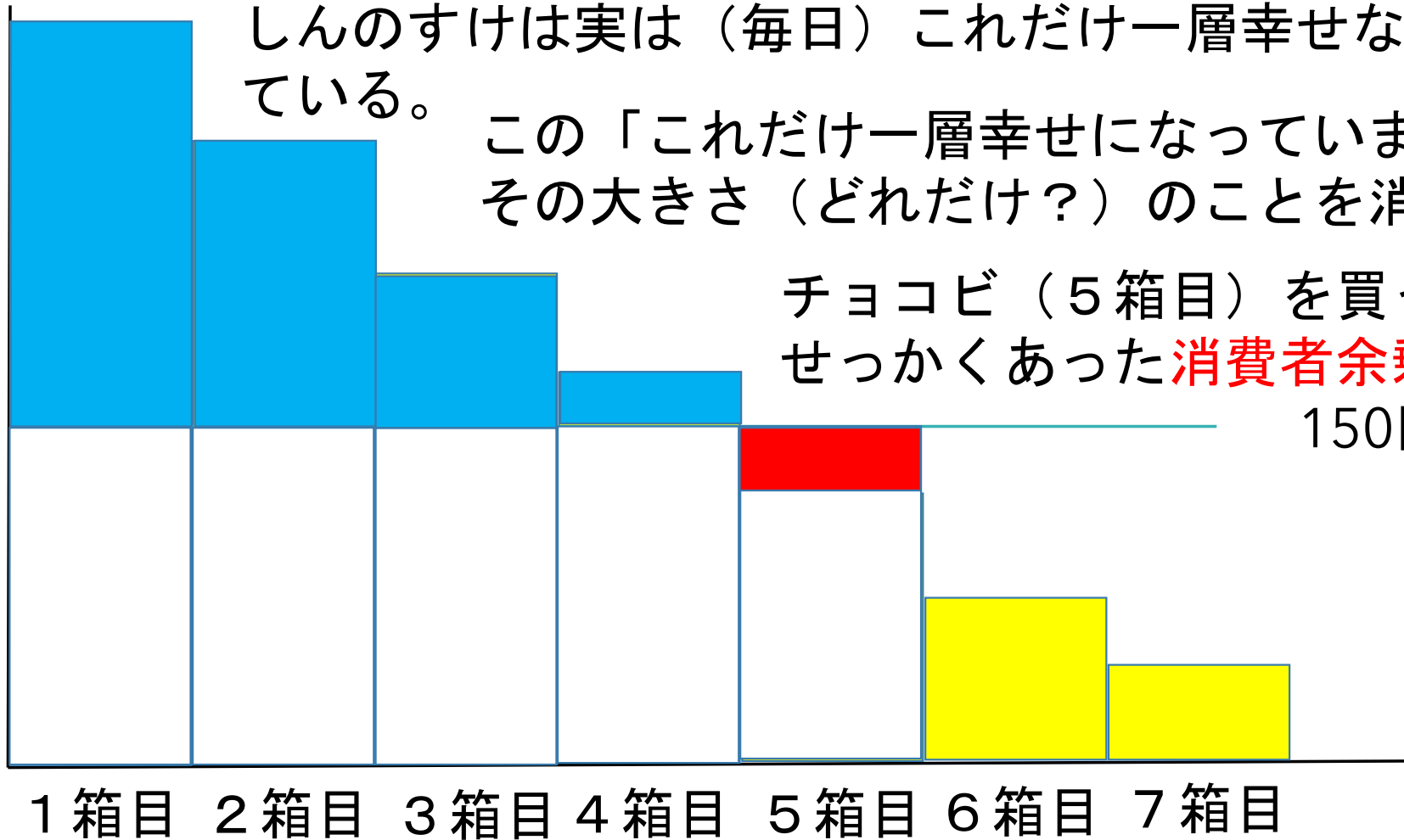
ということで・・・

「チョコビを150円で4箱買う」ことを通じて  
しんのすけは実は（毎日）これだけ一層幸せな時間を過ごしている。

この「これだけ一層幸せになっています」という、  
その大きさ（どれだけ？）のことを消費者余剰という。

チョコビ（5箱目）を買ってしまうと  
せっかくあった**消費者余剰がこれだけ減る。**

150円



一方、

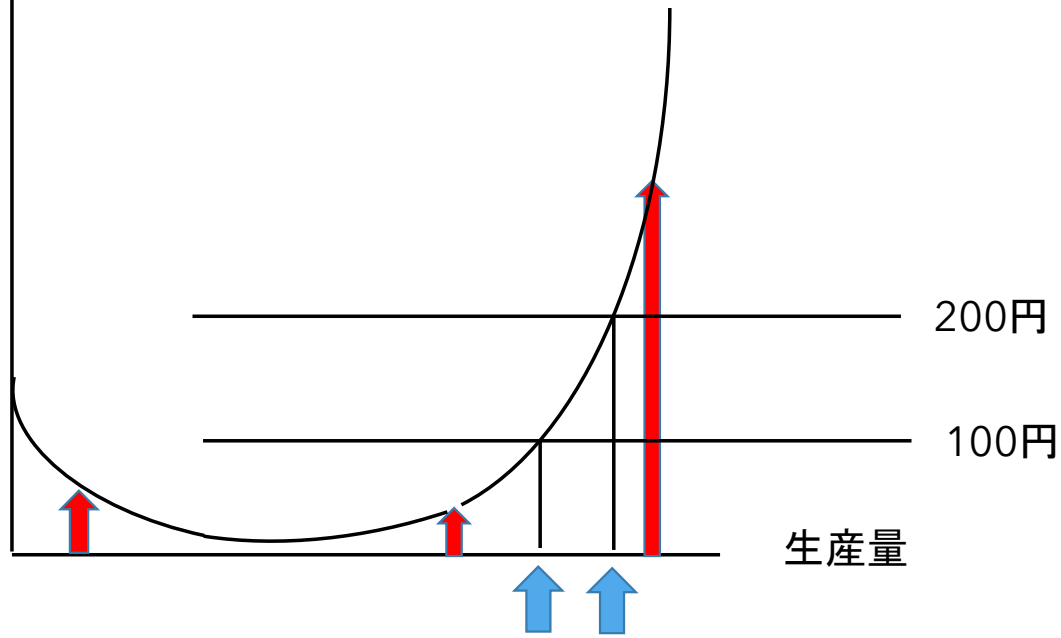
第10回の「ミクロ経済学演習」の資料では企業の理論について次のようなスライドが出ていた。

限界費用

限界費用曲線

(そこから1個増産するなら「増やす1個」にどれだけかかるか)

(そこから1個増減産するなら「1個減らしたおかげでどれだけ助かることになるか)



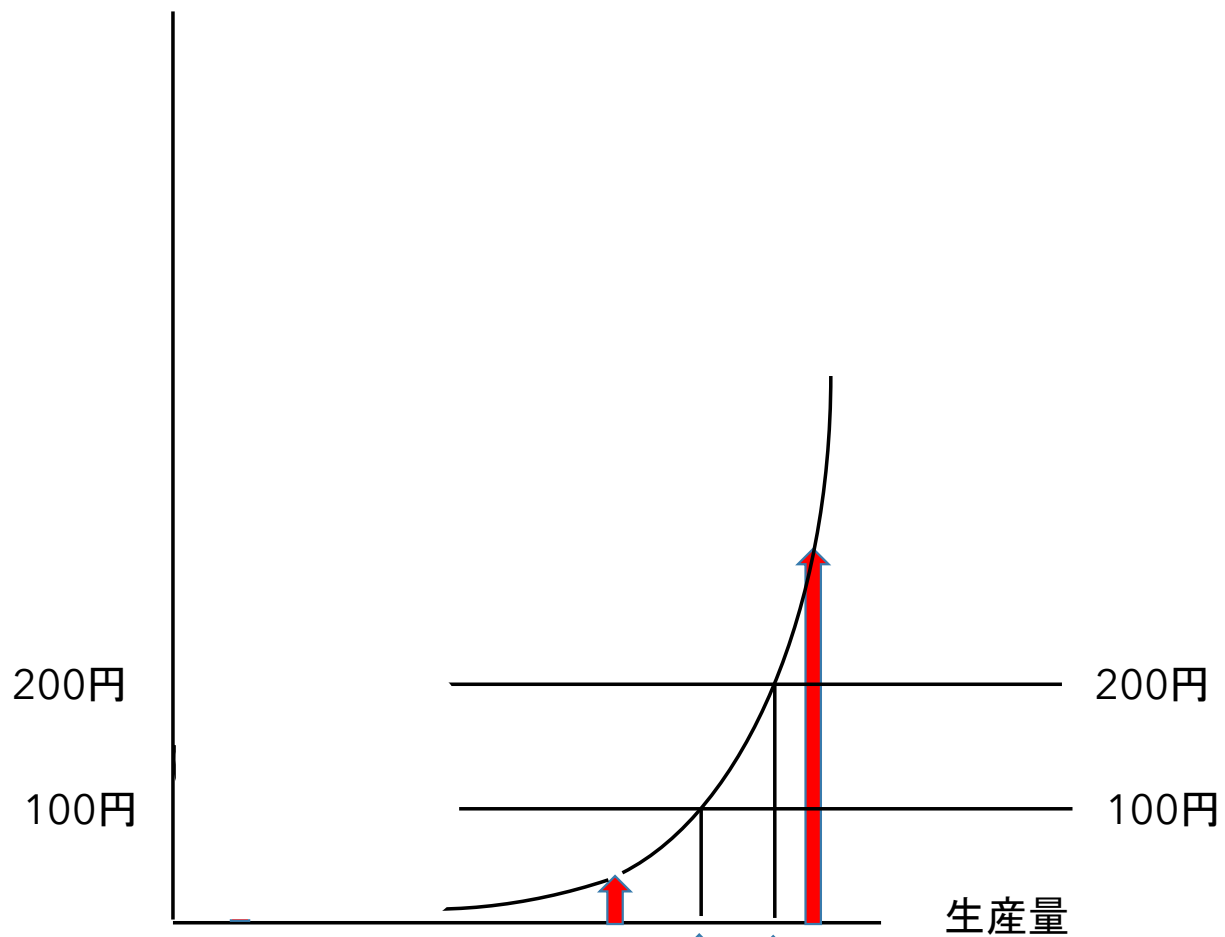
200円

100円

生産量

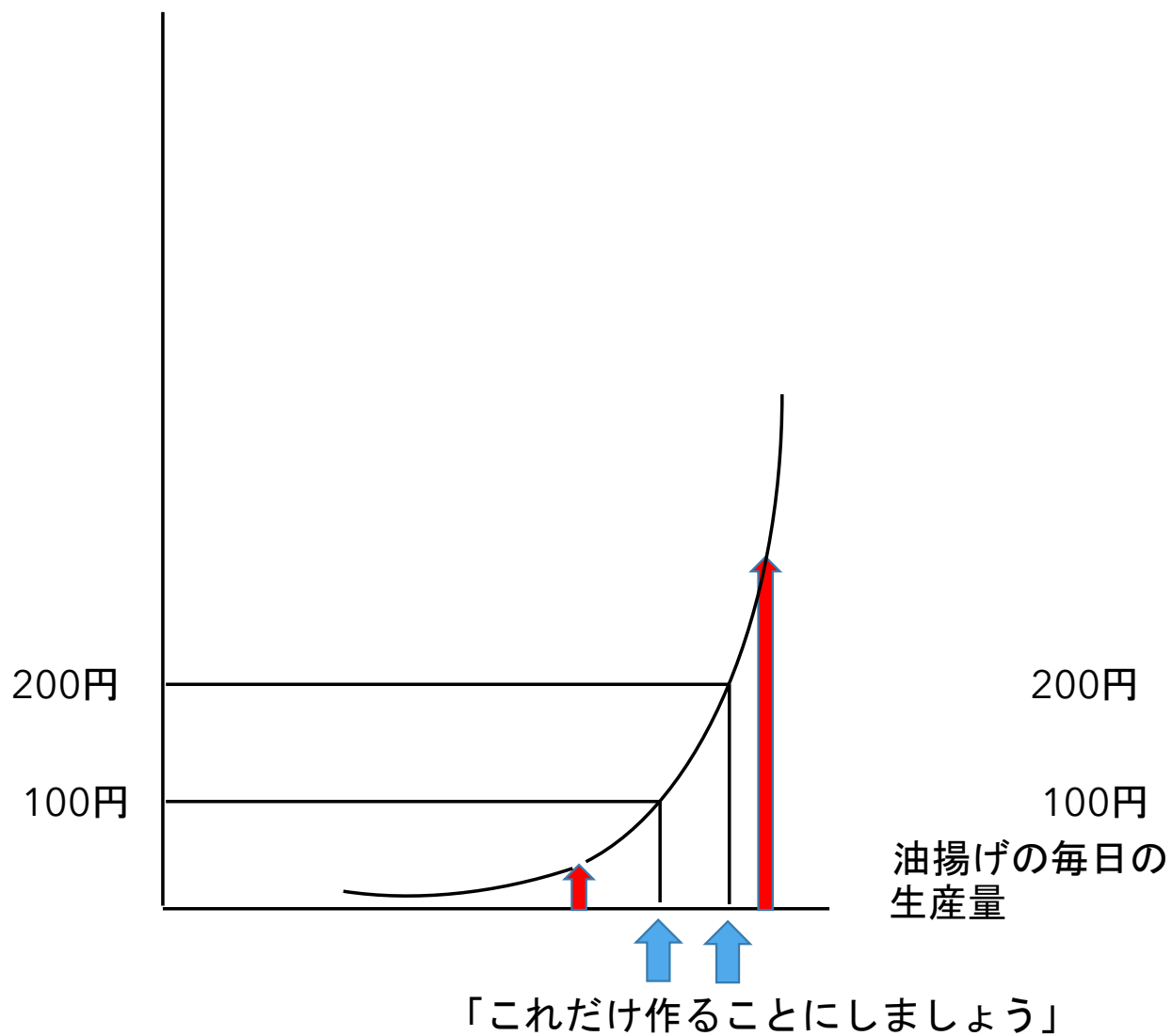
「これだけ作ることにしましょう」

価格



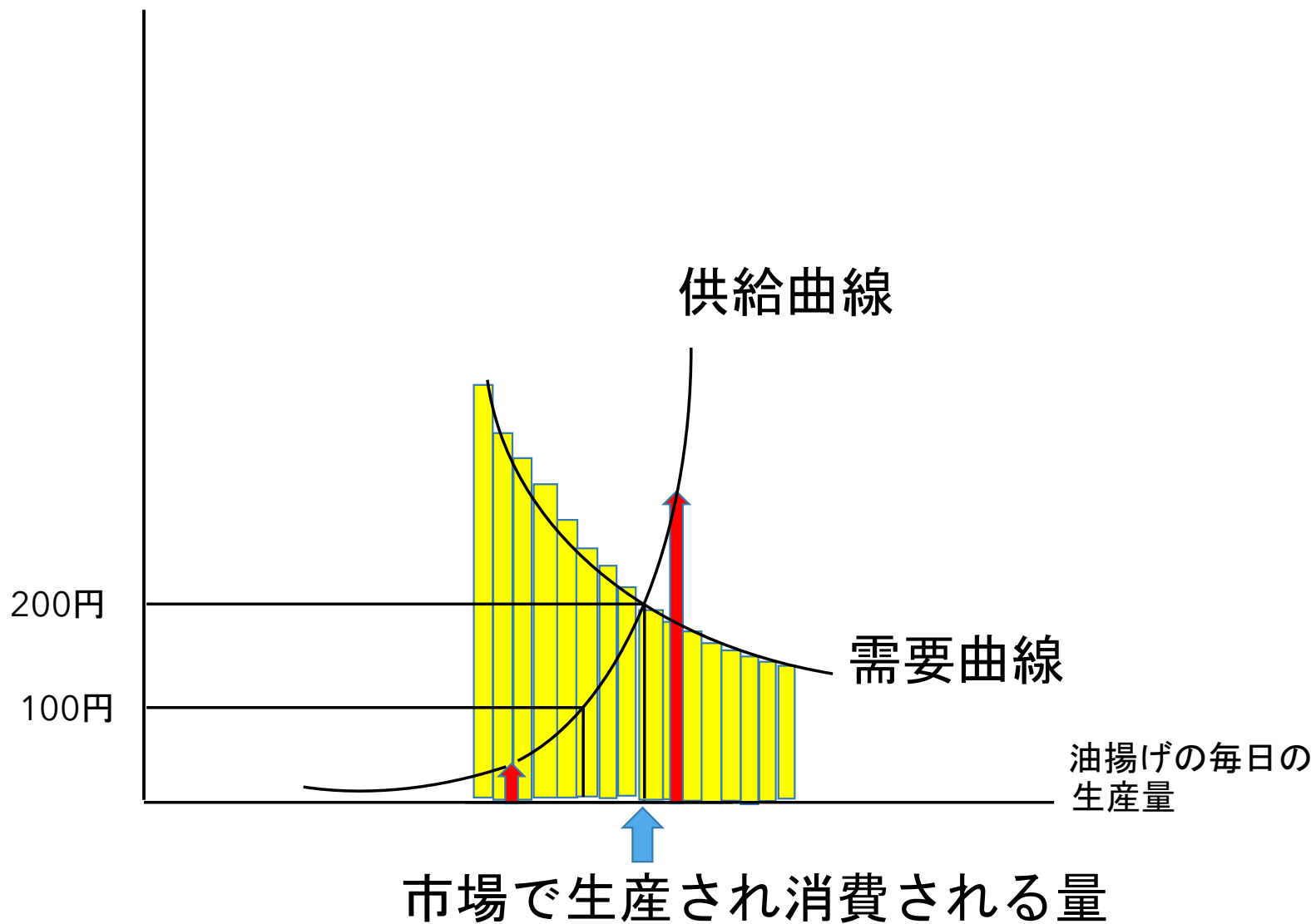
「これだけ作ることにしましょう」

価格

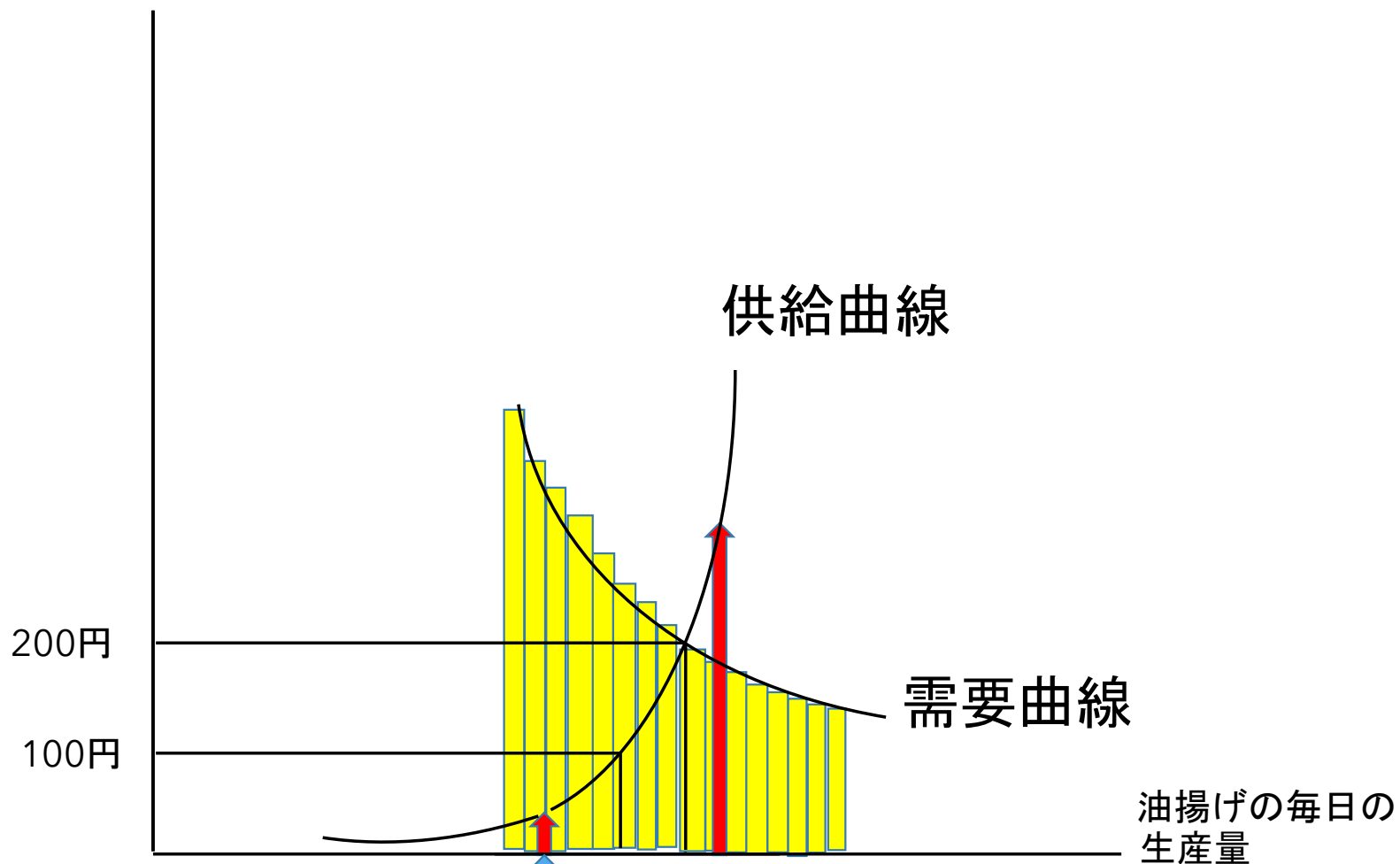


限界費用曲線が、実は企業の  
(右上がりの) 供給曲線の  
正体

価格



価格



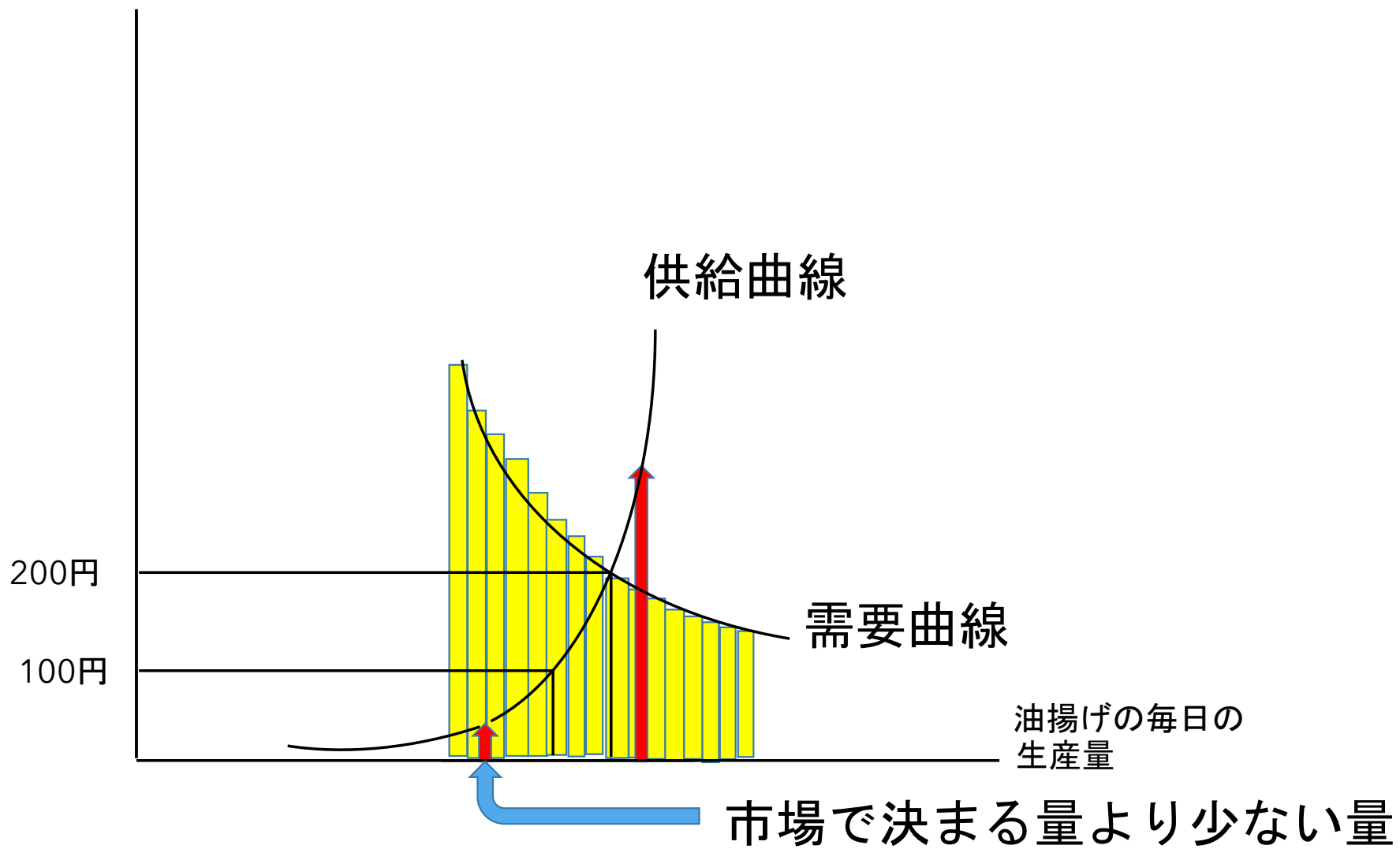
供給曲線

需要曲線

油揚げの毎日の  
生産量

いや、これだけ生産するのはどうかな？

価格





価格

その少ない量から「もう1個だけ生産量を増やしてみる。」  
すると・・・

供給曲線

そのときの限界費用はこの赤矢印の高さ分

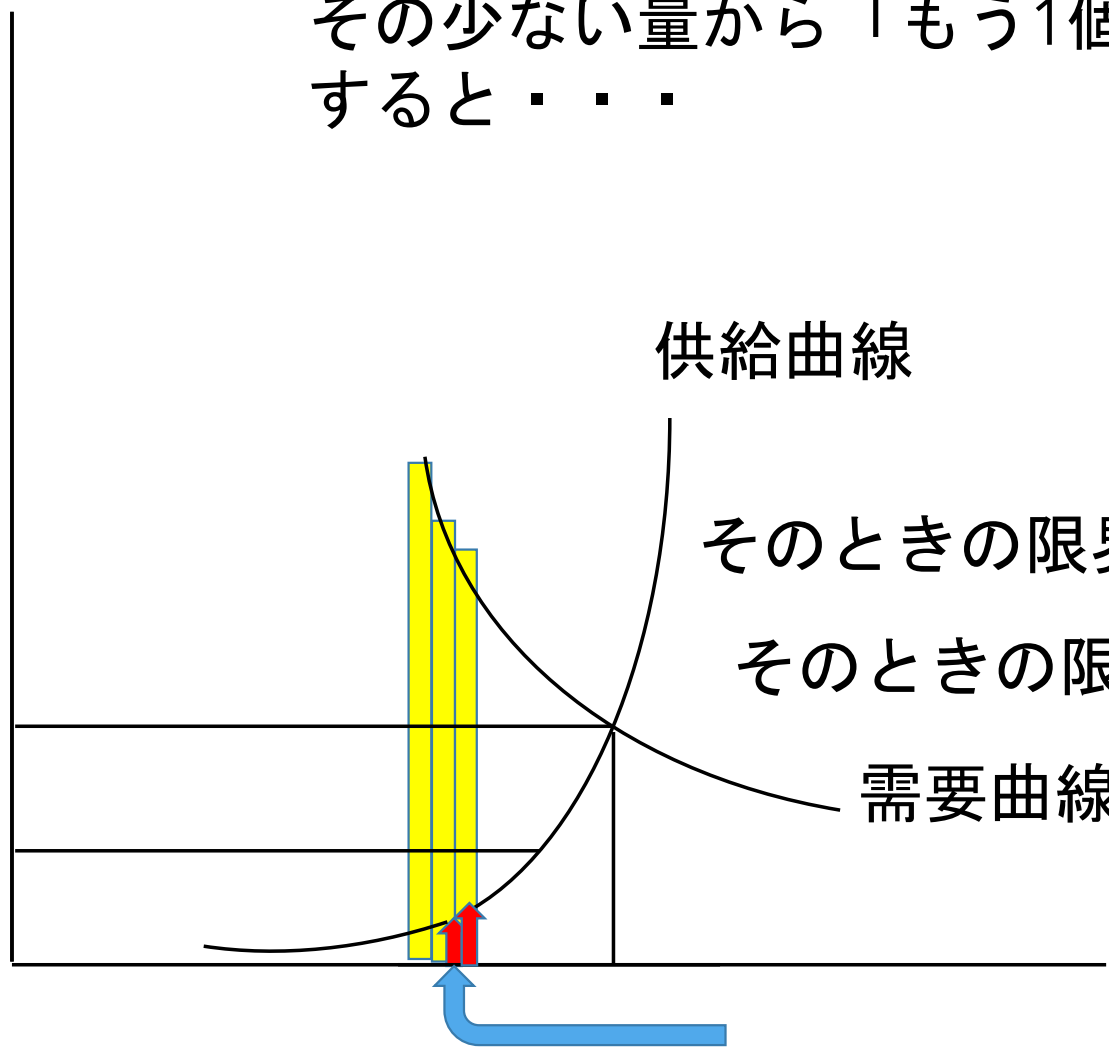
そのときの限界効用はこの黄色い棒の高さ分

需要曲線

200円

100円

油揚げの毎日の  
生産量



価格

つまりもう1個だけ毎日多く生産するならば・・・

ここから増産することで社会はよりよい状態になる（改善する）。

供給曲線

それによりトチオンガーは毎日これだけさらに疲れる。

子供たちは今までより毎日これだけさらに嬉しそうにしてくれる（幸せが増える）。

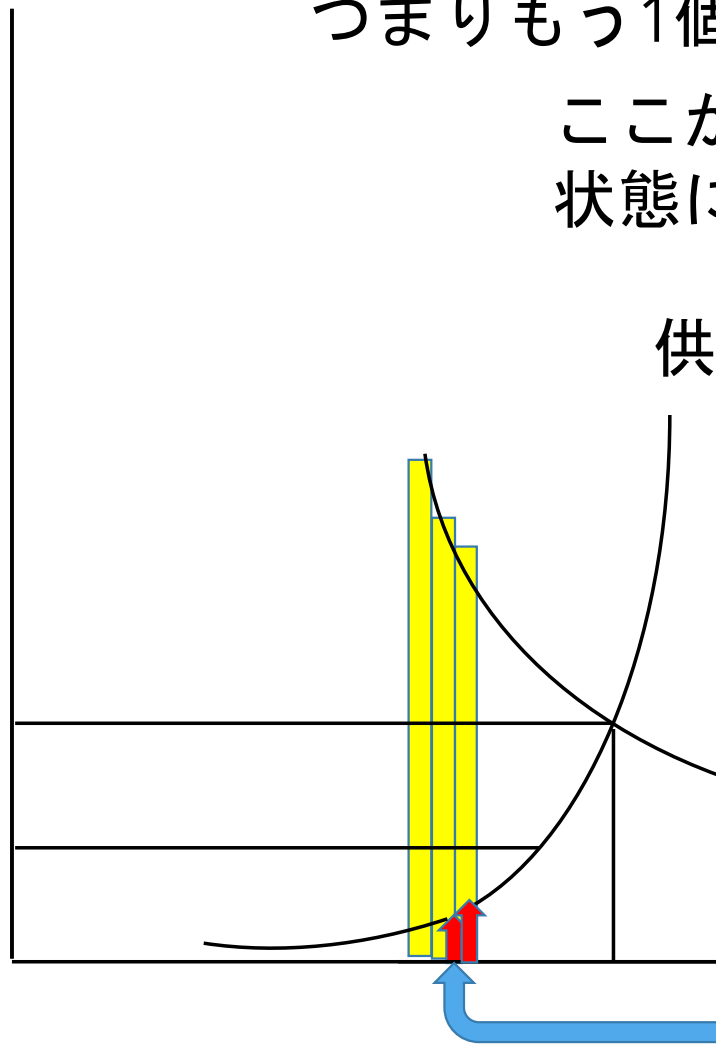
需要曲線

200円

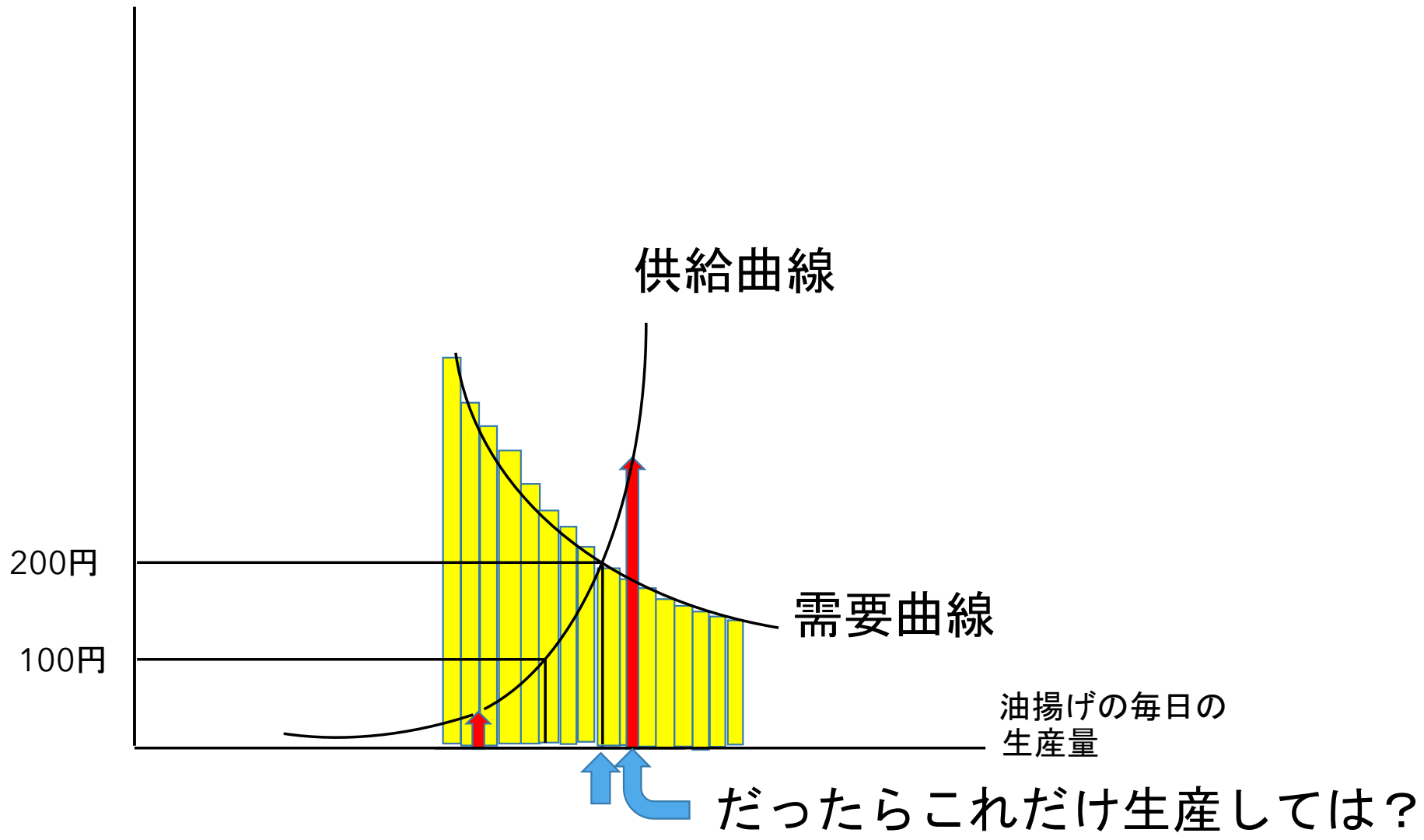
100円

油揚げの毎日の  
生産量

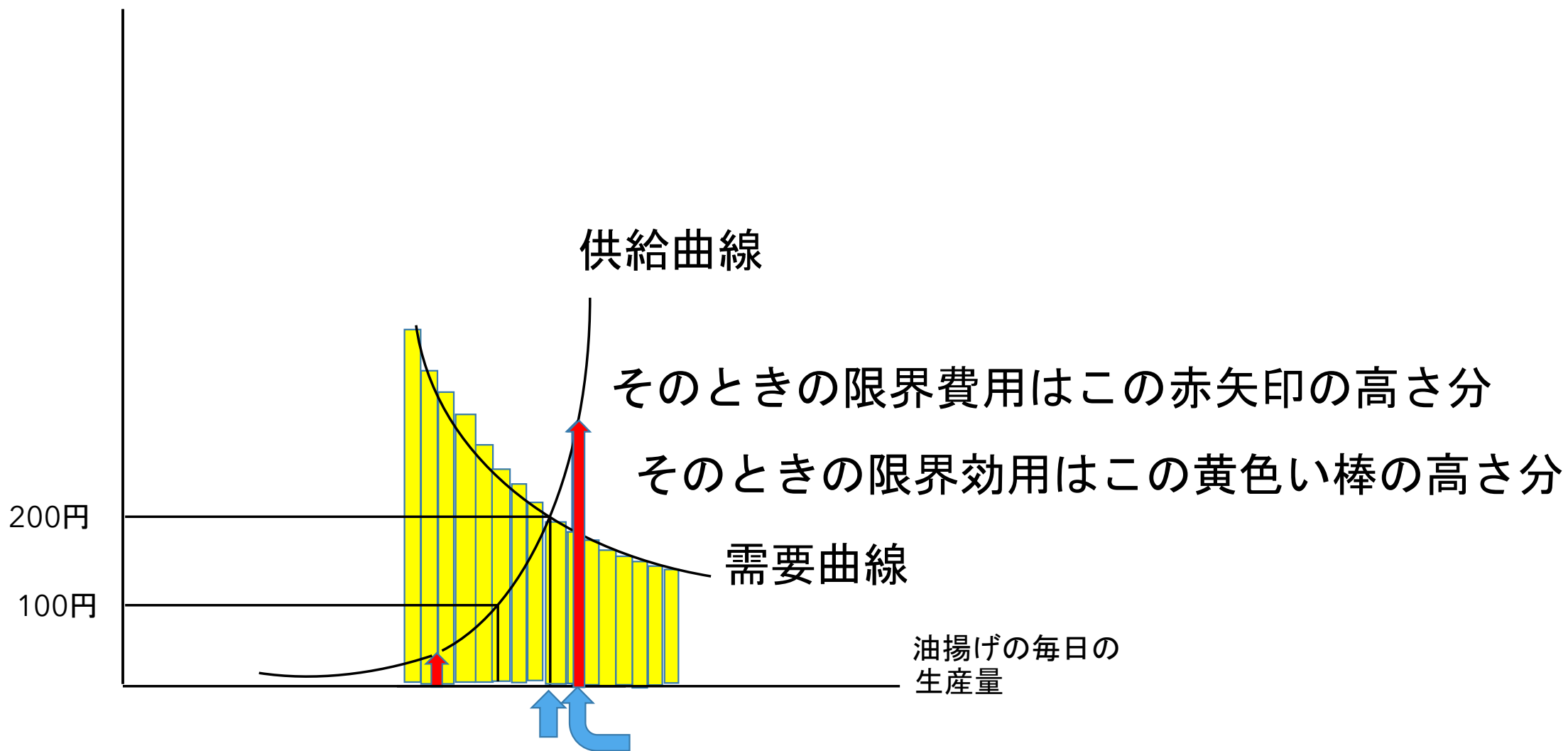
この量は「改善の余地のある量」ということ（増産することで改善する）。



価格



価格



価格

とりあえず要らない部分は消して整理すると・・・

供給曲線

そのときの限界費用はこの赤矢印の高さ分

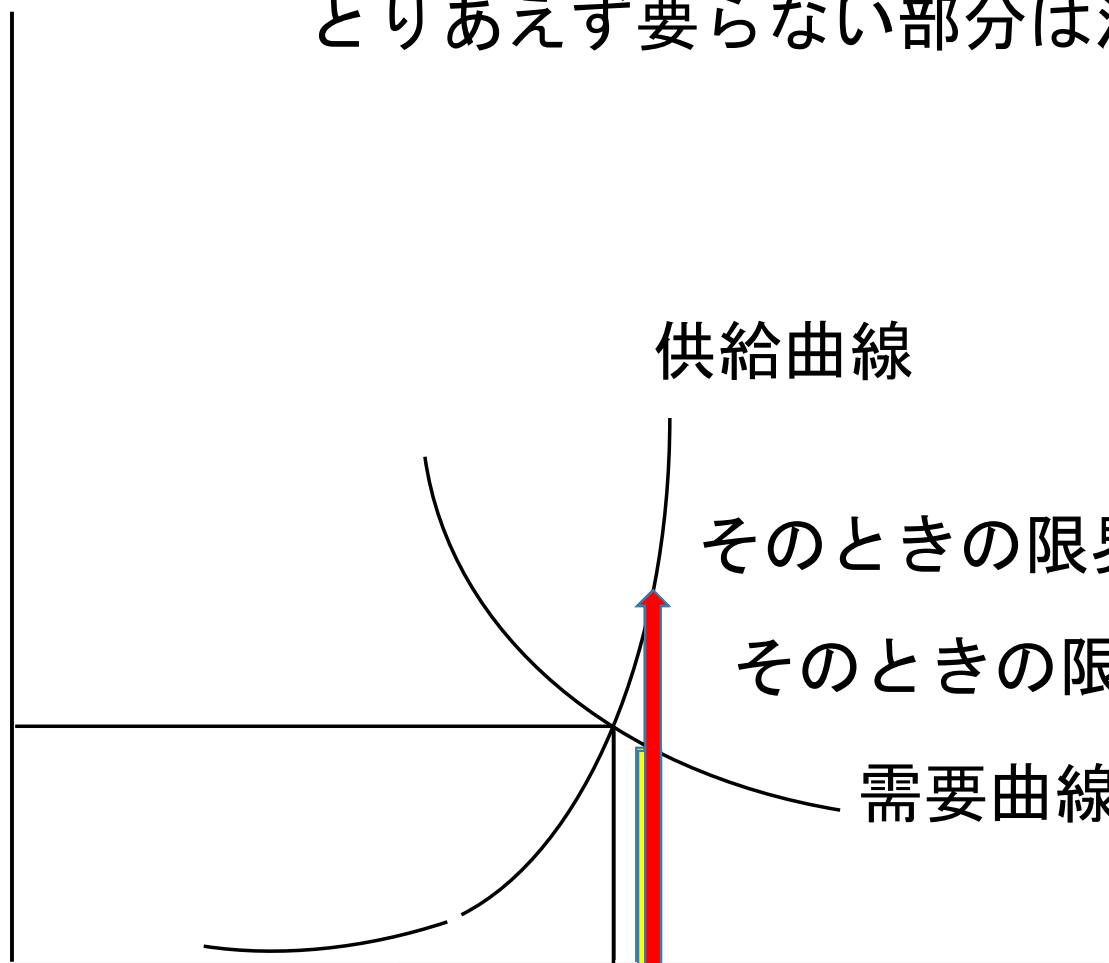
そのときの限界効用はこの黄色い棒の高さ分

200円

100円

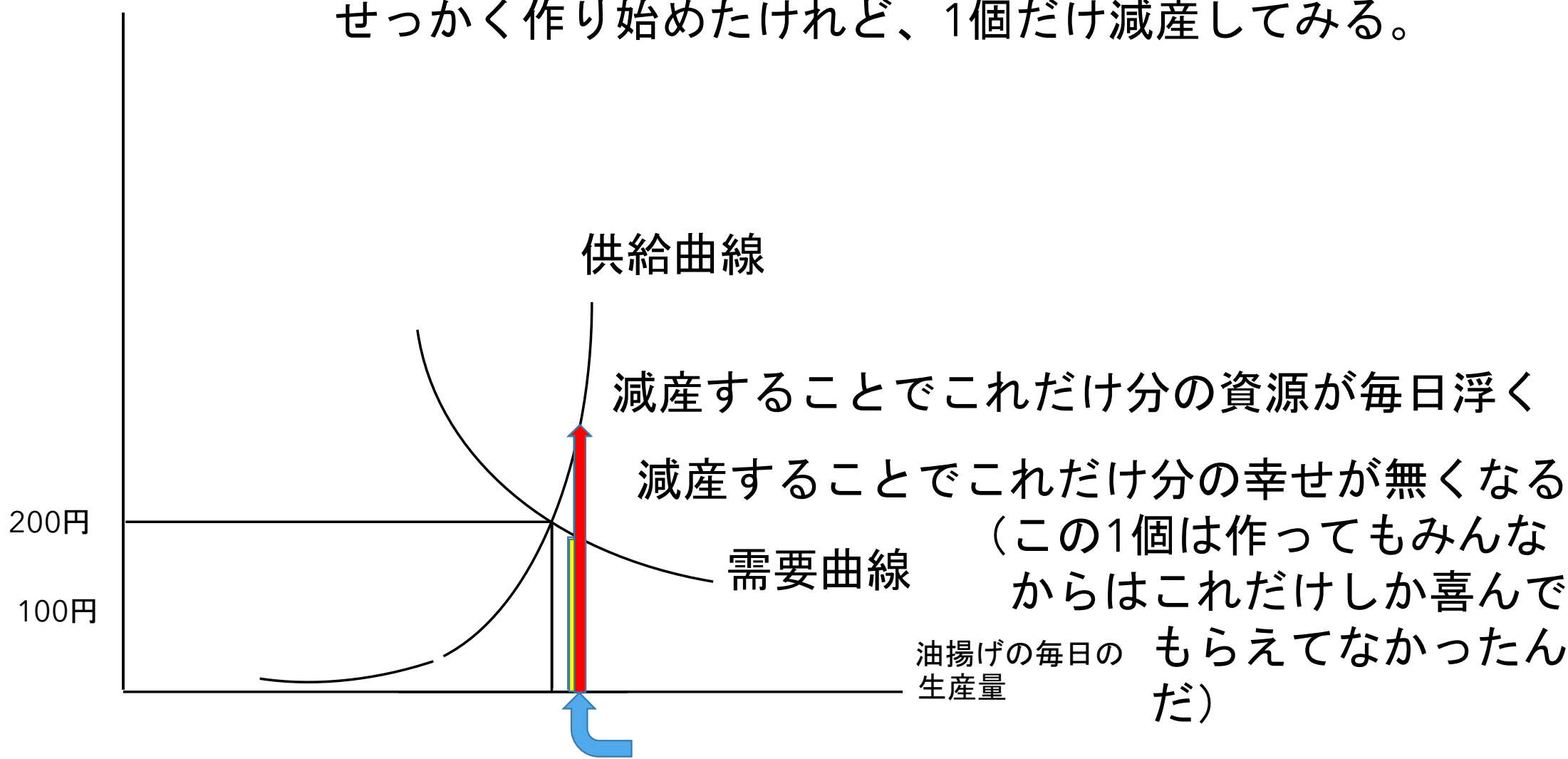
需要曲線

油揚げの毎日の  
生産量



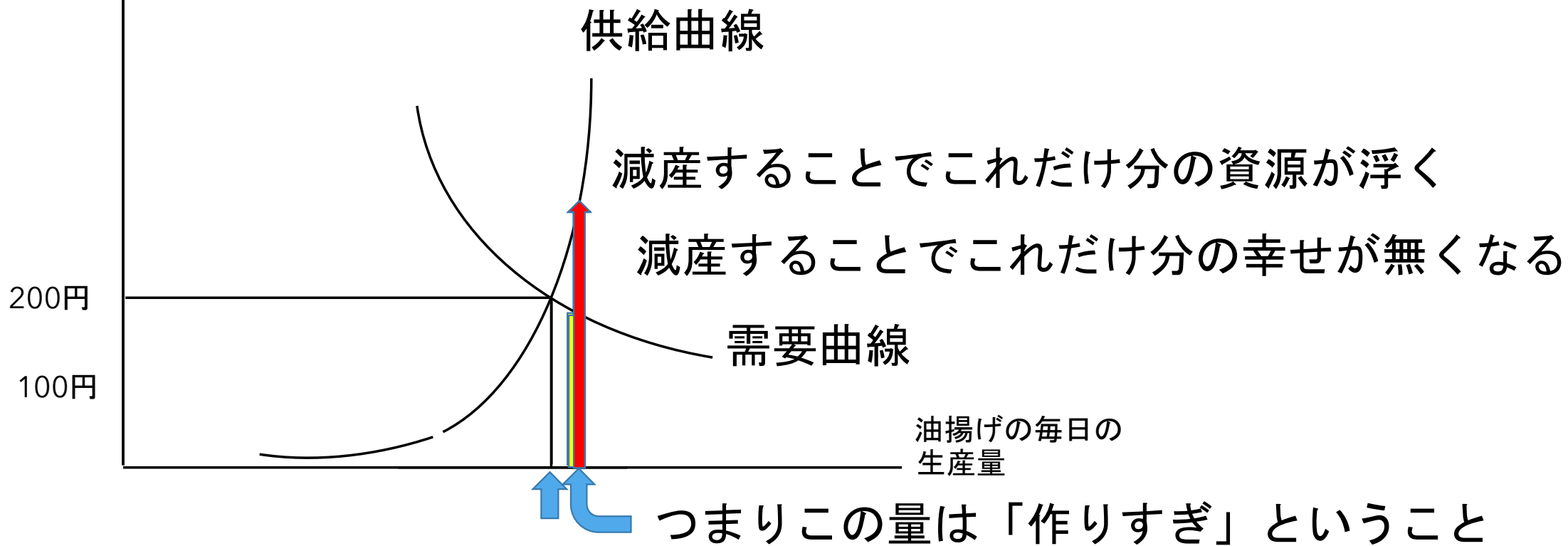
価格

せっかく作り始めたけれど、1個だけ減産してみる。

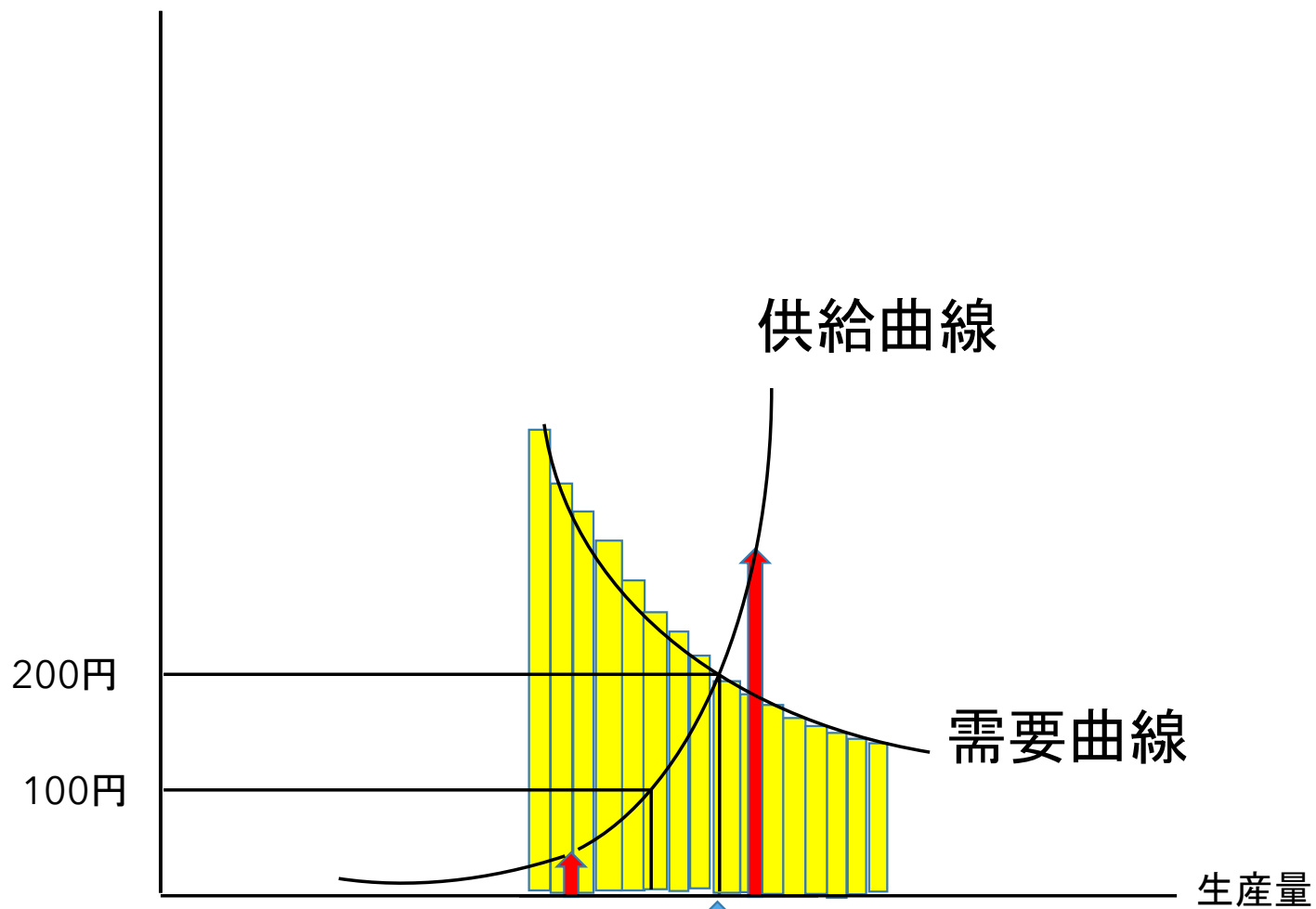


価格

この「1個だけ減産してみようかどうか」という1個は作らないで「減産」したほうが社会全体は良くなる。



価格



供給曲線

需要曲線

生産量

市場で生産され消費される量